

第6号

ゾーエー

ゾーエー



これまで行ってきた聖書研究とは別に、比較的参加しやすい形で聖書と触れ合う機会を設けたいという私の思いから始まりました。2020年10月7日から始まり、週に1度のペースで約4か月にわたり活動が続けてきました（第9回まで）。1時間という限られた時間の中で、聖書輪読、感想・疑問点の共有、舎監の石戸さんから該当箇所^の補足説明、まとめという構成で充実した時間を過ごしています。

第1、2回では、「放蕩息子のたとえ」「タラントンのたとえ」などイエスのたとえ話について学んできました。ギリシア語の「ピストス（忠実な）」「ピステイス（信仰）」について考え、また、たとえ話からイエスが伝えようとしていることは何かそれぞれの意見を共有し合いました。第3回から第9回までは使徒言行録を読み進め、学びの時を持ちました。当時の歴史や文化に触れながら使徒の働きを知るとともに、「聖霊」や「地位・権力」についても話し合うことができました。

この新里聖書研究会を行うことで、聖書を通して互いのことを知り、互いのことを考えることに繋がれば良いとも思っています。今後とも多くの方のご参加をお待ちしております。

朝の聖書研究

“今学期は、マルコの福音書を読み通しました。聖書の一冊の本を最初から最後まで読むのは初めてです。朝の聖書朗読もあと数日となりました。何を読むかを選ばなければなりません。マルコによる福音書を読んでいると、当時の読者は、現代の私たちがなかなか気づかないような重要な点を読み取っていたのではないかと想像する場面がたくさんありました。例えば、過越祭についての言及や、ケルビムが描かれた幕が裂く場面などです。新約聖書の福音をより理解するためには、旧約聖書をもっと読む必要があると感じました。

“小預言書についての説教はあまりされない。小預言書と呼ばれているが、他の書物に比べ重要性が低いわけではない。預言者たちは、神様のメッセージを受け取り、宣言する。小預言書たちは、愛、憐み、誠実さ、正義、赦しなどのテーマに触れる。これらはすべて、イエスが説いたこと（福音書に見られること）と一致する。”

マルコによる福音書の通読を12月22日に終え、1月は小予言書の一部を読んだ。12の小予言書のうちのホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書についての5～8分の動画がある（Bible Project 日本語）。聖書箇所を読んだあと、動画を見て意見を共有した。

日程	聖書箇所	リンク
1/7（木）	ホセア書 11章	youtu.be/3UZI9h52fSc
1/8（金）	ヨエル書 2章	youtu.be/PA6XGJDQebg
1/11（月）	アモス書 5章	youtu.be/rPhOURANFL8
1/12（火）	オバデヤ書	youtu.be/CnRnr3wumY0
1/14（木）	ヨナ書 前半	youtu.be/dLlabZc0O4c
1/15（金）	ヨナ書 後半	—

新里聖書研究（新研）

1月13日に9回目を開催した。新里とフラハティ、石戸舎監が中心に参加していて、他の舎生は時々参加している。使徒言行録を読み進めている。以前からルカによる福音書+使徒言行録を最初から最後まで読もうという試みが寮にあったが、なかなか上手くいかず、ルカによる福音書の途中で終わっている。マルコによる福音書を朝に読んでいるので、新研では使徒言行録を読んでいる。使徒言行録の5章まで読んでいる。朝の聖書研究とつながるところもあり、より詳しく聖書について学びたい人には良い会だ。

大阪都構想について思うこと

YMCA学生委員 遠藤愛明

石破茂が派閥の会長をやめたという。地方創生を掲げる現役政治家の代表格であったという印象がある。地方創生を訴える声は今後ますます弱くなっていくのではないだろうか。

亀井静香は10月22日掲載毎日新聞のインタビューにおいて「安倍（晋三前首相）さんは安全運転ばかりで、本来なら取り組むべきことに取り組まなかった。大事なことというのは、地方再生だ。口では言っていたけれども、やらなかった」「今、地方は惨憺たる状態だ。すべて東京にカネもヒトも集まるような時代になってしまった」と言っている。

以前石破の地元である鳥取を訪れたことがある。鳥取駅に通じるメイン商店街はオフシーズンということもあってとは思いますがほとんどシャッターが閉じていて活気がなかった。その商店街に石破の事務所もあった。鳥取砂丘が観光客で賑わっていたのと正反対の雰囲気だった。

藤田省三の『「小国寡民」を求めて』講義録を読んだ。スイス地方都市バーゼルを研究したカール・ショースキーのテキストを講義したものである。バーゼルはショースキーに言わせれば地方の小都市でありながらも「洗練されたコスモポリタニズム」Sophisticated cosmopolitanismを持ち合わせたものである。また藤田は後の箇所でも、バーゼルで活躍した学者ブルクハルトを紹介して「（ブルクハルトは）近代国民国家の巨大さ、グレートネスをセットとしての民主主義に反対する。巨大国家と民主主義の踊りの中で人類は滅んでいくというのがブルクハルトの見通し」としている。そしてそのグレートネスに対抗し得るのが地方小都市である「争いから脱落することで文化の中心」となったバーゼルだった、ということになる。「現代社会の巨大な流れに対して、『流れに抗した』存在がバーゼルだった」。

地方が中央に対して発言力あるいは影響力を持てば東京一極集中と呼ばれている日本の政治にもダイナミズムが出てくるに違いない。きっと多くの人が分かりつつも、実現していないのが日本の地方創生だ。バーゼルのような、「グレートネスに対抗」する地方の創生が理想としてあるべきではないだろうか。少なくとも一極集中に異議を唱えるのであれば、地方創生は考えねばならないはずだ。

大阪都構想の賛否が世論調査で拮抗している。大阪は今のまま、大阪府でよいと私は思っている。東京都の真似をしてどうするのか、東京に物を言う、それこそツッコミを入れる大阪であるべきなのではないか。大阪維新の会は府民の支持が厚いものの、本当に大阪のことを大事に思っているのか首をかしげてしまう。グレートネスへの追従ではなく、むしろ私は大阪に地方の連携を呼びかける旗を掲げてほしい。野党ではなく地方がアンチテーゼを出していく、そんな日本もあり得るのではないか。投票が近づくが、結果は将来に大きな影響を与えるものとなるだろう。



うぐいす祥子『闇夜に遊ぶな子供たち 完全版』トラッシュ・アップ、2016年。

前編（ZOE第5号掲載）では、うぐいす祥子の経歴と作風について紹介した。後編では、作品を紹介しながらその魅力を紹介していく。

うぐいすは読み切り作品を集めた短編集をいくつか出しているが、連載作品はそれほど多くない。ひよどり祥子名義で秋田書店から出版した『死人の声を聞くがよい』、現在講談社のマンガアプリ「マガポケ」連載中の『ときめきのいけにえ』、そして雑誌『ホラーM』に連載されていたオカルトホラー『闇夜に遊ぶな子供たち』である。今回は『闇夜に遊ぶな子供たち』を取り上げる。

『闇夜に遊ぶな子供たち』は、うぐいすの初商業作品である¹。自主同人誌「虐殺者の王」を第0話、『ホラーM』に収録された第1話から第6話までが収録されている。

大筋は自動車事故で両親を亡くした幼い兄妹の「トシオ」と「マコ」が様々な怪奇事件に巻き込まれるというストーリーである。黒魔術やクトゥルフ、神話などをモチーフにした作品が多い。言うまでもなく血の量も半端ではない。

以前紹介した、昭和の高度経済成長期の風景を描くことの多い呪みちると比較するとうぐいす作品の舞台は洋館や病院、孤児院などのどちらかという古風な場所が舞台となることが多い。そんな世界観とオカルト風のストーリーに加え黒のベタ塗りを多用する作画のせいで画面が非常に暗い雰囲気である。それに関わらず兄妹は必ず生きて帰ることが保証されているので、安心して物語を読み進めることが可能になっているのである。

うぐいすは大人だけでなく子どもにも容赦がない。妹のマコは霊能力がありその力によって事件を察知したり解決したりするのだが、その一方で憑依されたりすることもある。その狂いっぷりがすさまじい。体中から出るものがこれほどかというほど出る。ちなみに第1話

¹ 「あとがき」p.287。ちなみに「闇夜に遊ぶな子供たち」というタイトルは、1972年米国公開のB級ゾンビ映画「死体と遊ぶな子供たち」（CHILDREN SHOULDN'T PLAY WITH DEAD THINGS）をもじったものと思われる。

の孤児院の話では、孤児院が崩壊し中の子どもがすべて死んでしまう。第4話ではトシオとマコの通う小学校の生徒が5人ほど死ぬ。とにかく、思い切りがよい作風なのだ。



吐くときは思いっきり吐く（うぐいす『闇夜に遊ぶな子供たち 完全版』、p.80）

前編でも書いたが、うぐいすはかなり映画に詳しいようで随所にホラー映画のオマージュを盛り込んでいる。映画を参考にするのは『ジョジョの奇妙な冒険』の荒木に通じるものがある。また、オカルトネタも多く羽の生えた犬の姿をした悪魔「グラシャラボラス」や錬金術師フルカネリが登場している。細かいネタを探していくのも楽しいかもしれない。

今回は『闇夜に遊ぶな子供たち』を中心に紹介してきたのだが、ひよどり祥子名義の『死人の声をきくがよい』も様々なテイストのホラー作品が楽しめる連載作品となっている。こちらは青年誌の「チャンピオンRED」に掲載していたということもあってか、大きなあらすじはあるが、一つ一つのストーリーは独立しておりどれから読んでも楽しめるだろう。全13巻あるので少しずつ読み進めていくのがよいと思う。

・参考

【掲載作】0話のみ同名同人誌に加筆修正。後はぶんか社 隔月刊「ホラーM」連載。

第0話：「虐殺者の王」p.70。

第1話：ぶんか社 2009年10月号。p.36。

第2話：2009年12月号。p.31。

第3話：2010年2月号。p.32。

第4話：2010年4月号。p.32。

第5話：2010年6月号。p.32。前編。

第6話：2010年8月号。p.32。後編。

ぶんか社版に掲載されていた1頁漫画「マコのドリーミィー（ハートマーク）ダイアリー」2編とあとがき漫画1頁漫画（描き下ろし）を収録。

・参考文献

うぐいす祥子『闇夜に遊ぶな子供たち 完全版』トラッシュ・アップ、2016年。
gogo「ぼくの妹がこんなに憑依されるわけがない-うぐいす祥子『闇夜に遊ぶな子供たち』」 (<http://blog.livedoor.jp/yamadi99/archives/26390027.html> 2021年1月27日閲覧)

Y会議メモのメモ

YMCA学生委員 下山航輝

2021年1月30日（土） 理事会

○概要

2020年の8月から12月にかけて歴代幹事長（サークルY・渉外）、石戸舎監、福田委員を交えて、早稲田大学YMCAの活動の現状について話し合うY会議を全4回行った。そこで出された課題やその解決案について説明する。

○早稲田大学YMCAのサークルとしての現状について

➡結論：サークルとしての「枠組み」が信愛学舎には無い。

課題1. 早稲田大学YMCAサークル会員の不足（制度上の問題）

現在、早稲田大学の公認サークルとして認可されるためには21人以上の早大生の名簿が必要である。しかし、現在信愛学舎に所属している早大生の舎生は現在8人であり、残りのメンバーは舎生の個人的なつながりで名義を借りるという不安定な状況が継続している。早稲田大学のサークル更新は毎年行わないといけなため、サークル確保をしていた舎生が卒舎してしまうと公認サークルとしての認可が困難となる。また、信愛学舎には早大生以外の学生も在籍しており、彼ら彼女らをサークル会員として登録できない問題もある。来年度の2022年には、早大生を含む5人の舎生が卒舎するため、サークル会員が大幅に減ることが予想され舎生以外の寮外サークル会員の募集が喫緊の課題である。

➡早稲田大学YMCAの理念を達成するためには十分な数の人材が必要だが、現状では「早稲田大学の公認サークル」の認可が取り消される可能性がある。

課題2. YMCA活動を行う人の偏り（寮内の問題）

現在、外部のYMCAとの渉外を担当しているのは幹事長だけで、それ以外の学生が外部のYMCA活動を行う機会が少ない。またコロナ禍のため、普段であれば行っている活動を2020年度は行うことが出来なかった。舎生の中には、寮生活を重視したい立場の人もいるためYMCA活動を積極的に行う舎生とそうでない舎生との差が大きい。

課題3. 舎生の早大Y会員としての意識が薄い（寮内の問題）

現在、信愛学舎の活動の多くは寮内だけで完結しており大学の部室などで活動する機会はほぼない。入寮時にサークルオリエンテーションを行っていないなど、サークル会員としての意識や理念を共有する機会が少ない。また、YMCAとはどのような活動を行えばいいのかとあまり意識されてこなかった。

○原因

1. 制度的な原因

早大の公認サークルには21人以上の早大生の登録が必要だが、信愛学舎の定員は最大16人であり舎生だけでは公認サークルを維持することが構造上不可能。

2. サークルとしての「枠組み」がない

サークルオリエンテーションや寮内で聖書研究や読書会などの活動は行っているが、参加者の偏りなどがある。

○対策のための案

上のような現状認識、課題認識を踏まえて短期的な対策と中長期的な対策案が出された。短期的な対策はすぐに実行可能なので今春には具体的に行動をしていく。中長期的な対策は継続して数年単位で行っていく。

□短期的な対策

- ・ 寮内での連絡用SNSとは別にサークル連絡用のSNSを活用する（LINE、Slackなど）
 - ➡サークルの一員としての意識を明確化。連絡をスムーズに行う。
- ・ サークル会員向けのオリエンテーションの実施。
 - ➡毎年春ごろに行う。
- ・ 信愛学舎1階の会館貸し出し、外部サークルとの連携。
 - ➡課題1の短期的な解決策。構造的な人数不足の解消を目的とする。詳細は鶴田作成の別紙を参照。

□中期的な対策（1年以上）

・ 「Y会議」（仮称）の設立

- ➡早大YMCAの活動を統括、促進する会議。メンバーは早稲田大学YMCA会員。Y活動の基本計画作成、他寮生への活動促進、事業評価。

□長期的な対策（数年以上）

- ・ 外部サークル会員獲得のための新歓

- ➡課題1への長期的な解決案。
- ・ 早稲田祭への出店。
 - ➡YMCA活動の一環。
- ・ 他大学YMCAとの活発な交流
 - ➡特に東大Y・一橋Yら寮Yとの合同聖書研究会の主催。

今月の詩(ことば)—長田弘の詩

うつくしいものの話をしよう。

いつからだろう。ふと気がつくと、

うつくしいということばを、ためらわず

口にすることを、誰もしなくなった。

そうしてわたしたちの会話は貧しくなった。

．．．

一体、ニュースとよばれる日々の破片が、

わたしたちの歴史と言うようなものだろうか。

あざやかな毎日こそ、わたしたちの価値だ。

うつくしいものをうつくしいと言おう。

幼い猫とあそぶ一刻はうつくしいと。

シェロの枝を燃やして、灰にして、撒く。

何ひとつ永遠なんて、いつか

すべて塵にかえるのだから、世界はうつくしいと。

—長田弘『世界はうつくしいと』より抜粋

さりげないもの。

さりげない孤独。さりげない持続。

くつろぐこと。くつろぎをたもつこと。

そして自分自身と言葉を交わすこと。

一人の人間のなかには、すべての人間がいる。

．．．

もっとも平凡なもの。

平凡であることを恐れてはいけない。

わたし（たち）の名誉は、平凡な時代の名誉だ。

明日の朝、ラッパは鳴らない。

深呼吸しろ。一日がまた、静かにはじまる。

長田弘『わたし（たち）にとって大切なもの』より抜粋

目次：

新里聖書研究会活動報告（新里）	1頁
2020年12月—2021年1月聖書研究活動の報告（フラハティ）	2頁
大阪都構想について思うこと（遠藤）	3頁
このホラーがすごい！第3回「現代の正統派ホラー作家 うぐいす祥子とは（後編）」（下山）	4-5頁
Y会議メモのメモ（下山）	6-8頁
今月の詩(ことば)—長田弘の詩（編集部）	9頁

編集後記：

Zoe第6号です。次号は春休みに刊行予定、年度を振り返るコンテンツの掲載も予定しています。お楽しみに。引き続き皆さんのお原稿をお待ちしておりますので学生委員にまでお声掛けを！

（追記）下山くんが学生委員就任が理事会で決定されました。よろしくどうぞ！

下山です。先日の理事会で学生委員として決まりました。これからさらに1年間信愛に残ることになります。どうぞよろしくお願いいたします。